

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 発達支援ルームでこボン（児童発達支援）

公表日 2025年 11月 21日

利用児童数 2025年 10月 31日 23名

回収数 14

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	0	0	1		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	10	2	0	2	マンツーマンでありがたい。	年齢の幼いお子様は特に、メインで関わる職員に加えて、見守りやサポートをする職員を配置するようにしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	0	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	1	0	0	専門的な知識のある先生方が細やかな支援をしてくださっている。	職員研修や学会発表等、社内外で研修を行い、最新の知識をもって専門的な支援が出来るように、今後も務めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	1	0	2	素人なので支援の提供などはよくわかりません。	公表している支援プログラムと実際に提供している支援の繋がりを説明でき利用に努めます。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	0	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	0	0	1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	0	0	0	本人の希望に沿った活動をしている。毎回遊具の配置がかわっているおかげで苦手だったことができた等気持ち新たに活動できてありがたい。	お子様が通所を楽しみにワクワクできるように、ご希望を踏まえた上で少し頑張ったらできた、という活動を継続します。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	1	1	10		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	0	0	0	時間をかけて丁寧に説明されている。	今後も契約時の説明を丁寧に行ってまいります。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	1	1	3		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	13	0	1	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	0	0	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	3	2	4		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	1	1	2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	0	0	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	0	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	2	0	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13	0	0	1	少し頭を打った場合などもその後の様子を電話で確認していただいたり丁寧に対応いただいていると思う。	事故を起こさないのが一番大切ですが、起こった後は速やかに保護者様にお伝えし、その後の対応を真摯に行うことを続けてまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14	0	0	0	とても楽しみに通っています。	これからも楽しみに通ってもらえるよう頑張っております。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	1	0	1		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
発達支援ルームでこボン		2025年 11月 21日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	活動的な児が重なる場合は、活動場所や内容のすり合わせと調整をしている。	面談室などのスペースを利用し適切に活動できるように工夫する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	3	幼い子や危険認知に不安のある子には、複数の職員を配置している。	今後安定した支援や療育を行う上で職員数の確保は必要と考える。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	個人用にスケジュールボードを準備している。	スケジュールボードに関心を示さない児への対応の工夫が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日の掃除に加え、定期的に点日干しや消毒を行い、清潔に保つ努力をしている。	マット等の布製品の劣化があるため、修理や買い替え等が必要になってくる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	個別療育なのでひとりひとりに合わせた活動や環境を提供している。	個室を使いたい子が複数いる場合の対応。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	月に1度は全体会を通して業務についての話し合いを持っている。利用児についてはその都度話し合いしている。	シフトの都合で全員参加できず、伝達で申し送ることがある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	年に1度のアンケートと、翌年度に向けての意向を何うアンケートを実施している。	翌年度の利用時間について希望に添えない場合が多い。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	職員全体会議を通して話し合いや周知をする機会を設けている。	シフトの都合で全員参加できず、伝達で申し送る場合がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	本社との話し合いの中で業務会2年を行っているが、社外の第三者の外部評価は受けていない。	将来的には外部評価も必要と考える。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	社内委員会による接遇・感染防止・虐待防止・BCPIについての研修を定期でお子会っている。毎月、職種別・全職種向け・外部講師などの勉強会が定期的に行われている。	社内委員会の研修は全員参加できているが、その他の勉強会は業務時間外の開催であり、自由参加であるため職員によって参加率に差がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	ホームページに公開している。	職員全員で内容を把握できるよう定期的に確認が必要。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	子どもや保護者の希望を聞き、アセスメントを踏まえて作成している。	希望と課題のすり合わせ、バランスのとれた計画の作成。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	療育を担当する職員や普段関わることの多い職員が中心となり、検討を行っている。	経験年数や技量によって、サポートが必要なことがある。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	目標に沿ったプログラムを実施している。	経験年数や技量によって、サポートが必要なことがある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	利用児全員、行動観察や感覚特性を図るアセスメントシートを実施。必要な児には発達検査を実施している。	発達検査は全員には行えていない。検査結果の解釈には経験のある職員のサポートが必要。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	支援内容にその項目が該当するか、計画書に明記している。	学校や関係機関との連携については、児によって差がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	担当職員が中心となって立案している。	シフトによって担当職員ではない職員が関わることもある。現在は申し送りを十分行っており関わっているので問題はない。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	様々な情報源から、児が好むものを踏まえて他の楽しめる活動が提供できるよう工夫している。	活動が広がりにくい児への無理のないアプローチ。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	個別療育が中心だが、同じ時間帯の少数名での活動を適宜企画している。	時間帯によっては複数で活動できにくい時間もある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	療育開始までに担当する職員同士や、関わりの多い職員で打ち合わせをし、チームで関わられるようにしている。	療育が立て込んでいるときに時間を工面することが難しい。（なんとかやっている）
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4	その日に出来る時と、翌日になる時があるが、かかわった職員で振り返りを行っている。	業務終了後に行えないため、翌日以降に持ち越す場合がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	毎日記録を行っている。	療育が何セッションも続くと、翌日以降に記録を持ち越すことがある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	定期的に保護者と調整し場を持って話し合いをしている。	児発管の予定と保護者の予定がなかなか合わない場合がある。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	担当職員が児発管が出席している。	学校との会議は夕方にセッティングされることが多く、人員配置上職員が抜けることが困難ことがある。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。			医療ケアの必要な児の利用がない。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	保護者からの要望を踏まえて連携を図っている。	保護者からの要望がない場合の連携
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	保護者からの要望を踏まえて連携を図っている。	保護者からの要望がない場合の連携
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	支援の難しいケースに対して、助言や連携を求めている。	全ての児については行っていない。また、県内各地からの利用があるため、全てのセンターとは連携が取れていない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6	無い。	療育スタイルを踏まえると難しい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	保護者送迎のため、送迎の際に保護者と情報共有を行い共通理解が持てるように関わっている。	療育が立て込むと、保護者とゆっくり情報交換できないこともある。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	「ペアレントトレーニング」とかっちりした形ではないが、療育時に行動理由の説明や振り返りを行っている。保護者を交えて活動することもある。	療育が立て込むと、保護者とゆっくり情報交換できないこともある。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に行っている。	契約後は行っていないので、定期的に必要かもしれない。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	モニタリングやフィードバック、面談を通し、子どもや家族の意向を踏まえるように努めている。	意向と必要性が異なる場合の対応について悩むことがある。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	計画書を保護者の目の前で一緒に読み上げながら説明している。	契約時の総数が100を超えるため、説明の機会の調整に苦労している。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	定期的なモニタリングやフィードバック以外に希望があれば面談を行っている。	発信の少ない保護者へのフォローと希望の拾い上げが必要。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	6	保護者が関係している父母の会や障害児の会等の後押しを行っている。事業所での父母会はなかなか開催できていない。が、同じ療育時間になる保護者どうして交流がある場合や必要な時に支援を行っている。	事業所主催の父母会の開催。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	希望があった場合は迅速に対応している。	面談の対応が出来る職員のスケジュールによっては翌日以降になることもある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	定期的な会報の発行、ホームページ、Instagramで活動を公表している。	業務と並行して、ホームページやInstagramヘリアルタイムで公表することが難しい時がある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	鍵付き書庫の使用や、シュレッダーでの粉砕、持ち出し禁止、話合いの声の大きな場所の配慮などの対応を行っている。	定期的に職員へ周知する必要がある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	2	視覚支援、筆談、手話等の手段でやり取りしているケースがある。	手話などは全員が出来るわけではないので、関わる職員に限られる。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6	地域住民の招待は無いが、地方祭りの協賛は行っており子ども神輿の休憩所となっている。	地方祭り以外の交流
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	マニュアルを策定し、待合室や事務室においており自由に閲覧できるようにしている。	定期的なアナウンスが必要。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	計画を策定し定期的に訓練を行っている。	BCPだけで行うか、防災や感染委員会と協働して行うか、調整中。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	契約時に、服薬や持病に関する記入が必要な調査票を渡しており、それによって把握している。	薬が変わった時の把握。定期的に確認が必要。（モニタリング時には確認している）
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	4	契約時に食物アレルギーについては確認しているが、食事の提供をしていないので医師の指示書はもらっていない。調理活動を行う際に保護者へ個別に確認している。	将来的に食事の提供を行うことになった場合には、主治医との連携が必要と思われる。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全計画の作成を行い、定期的に遊具点検をおこなって、安全を管理している。	定期的な点検を継続し、日々の気づきも怠らないようにする。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	安全計画について待合室にファイルを置いて自由に閲覧できるようにしている。	定期的なアナウンスが必要。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	作成し、周知している。	様々なケースがあるので、その度に方策を考えていく必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	研修を行い、対応を周知している。	研修と対応の周知を継続していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	以前に必要なケースがあった際には、説明と同意を得て期間を決めて実施し、計画書へ記載した。	保護者との十分な話し合いを行った上で取り組む。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ルームでこボン			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2025年 9月 15日		～	2025年 9月30 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育のため、個々に合わせた活動や環境の調整を行っている。	ひとりひとりの得意不得意や、強み弱みを把握し、個々の好みや希望に合わせた活動を提供している。環境についても、別室の利用などの対応を行っている。	児によって差がでないよう、個々の担当者が同じレベルで調整や対応が出来るようにスキルアップしていく。
2	療育を保護者が見学することができるため、その場で行動や関わり方についての説明やフィードバックが可能。また、保護者との情報交換もその場で行うことが出来る。	定期的な面談以外に、療育時のフィードバックや手の空いている職員が保護者へ声かけし、日々の様子の聞き取りが出来るようにしている。	職員会議等で情報を共有し、聞き取りが出来るケースそうでないケースを把握。保護者への聞き取りや助言を行う際には経験豊富な職員が中心となって行うが、経験の浅い初期員も同席するなど、教育の場ももっていく。
3	社内委員会による必須研修、自由参加による研修や学会発表などの自己研鑽の場が多い。	本社主催の研修会、勉強会に参加している。 地域で研修会へ参加し、地域の課題の把握や繋がりを作っている。	職員が参加しやすい時間帯や方法を考えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所主催の父母の会の開催がない。	定休日無く、毎日個別の療育をおこなっているため、イベントを行うには療育を中止せざるを得ない。また、それに対してさける職員数がない。	おおがかりなものではなく、数名単位の会や、同じ時間帯での保護者の交流のサポート。
2	保育所や認定こども園や幼稚園との交流や地域での交流がない。	個別療育が主であり、数時間を交流のために確保することが難しい。	子ども同士の交流は難しいが、利用児の通う園との情報交換は可能である。利用児の普段の姿の見学を行い、園との共通認識を持つことは行っているため、継続していく。
3	マニュアルや安全計画についての定期的なアナウンスが弱い。	策定時にアナウンスし、待合室に自由に閲覧できるように置いているが、意識的に手に取らないとみることが出来ない。	新規契約時のアナウンスや、モニタリングや面談時のアナウンス等、こまめに保護者へ知らせていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 発達支援ルームでこボン（放課後デイサービス）

公表日 2025年11月21日

利用児童数 2025年10月31日 94名

回収数 53

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	50	3	0	0	激しい運動が安全にできるように配慮されている。運動器具が多く外出機会の少ない子にはありがたい。クールダウンが重なりと少し狭い。	安全に配慮しながら、面談室や他のスペースも工夫しながら伸び伸び活動できるよう工夫していく、
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	52	0	0	1	マンツーマンでありがたい。	個別で丁寧な支援を継続していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	50	1	0	2		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	52	0	0	1		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	51	1	0	1	家庭では受けられない専門支援を楽しんで受けられる。	専門職として正しい知識で関わる事が出来るようにこれからも研鑽を積んで行く。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	51	1	0	1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	50	0	0	3	本人の希望も取り入れつつ必要と思われる活動を提供してくれている。	本人の希望や保護者の希望をこまめに聞き取り計画に落とし込んでいく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	50	0	0	3		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	50	2	0	1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	49	2	0	2		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	18	9	6	20		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	53	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	53	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	34	1	5	13	支援中に先生の接し方を見学して学べる。	療育時や活動後のフィードバックを継続していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	49	2	0	2	活動後に説明してくれる。専門的な視点で活動の意味を伝えてくれる。	専門職として正しい知識で関わる事が出来るようにこれからも研鑽を積んで行く。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	51	0	1	1	保護者の都合も配慮いただきありがたい。的確なアドバイスをしてもらっている。	専門職として正しい知識で関わる事が出来るようにこれからも研鑽を積んで行く。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	53	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	19	8	3	29	父母の会はないのではないかな。	前向きに検討する。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	53	0	0	0	苦情は特にない。	苦情が無いように丁寧に関わることを継続する。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	52	0	0	1	ちょっとした相談がしやすい雰囲気づくりがありがたい。	話しやすい雰囲気や声かけを継続する。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	47	1	0	5		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	51	0	0	2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	44	1	0	8	以前に説明はしてもらったが、忘れている。	定期的にアナウンス出来る方法を考える。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	23	3	1	24		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	46	1	0	5	十分に気を付けた活動をしてもらえている。	ケガや事故が起きないような環境、人の配置をこれからも考えていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	40	4	0	8	怪我までいかない軽い心配事も発生後すぐに連絡があり、アフターケアが十分なされていると思う。事故は発生していないと認識している。	事故が発生しないことが大前提ではあるが、発生した場合は速やかに保護者へ連絡し、その後も丁寧に対応していく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	53	0	0	0	高校生は通える場所も少なくなりさびしいですが本人は先生との会話をとても大事に楽しみにしています。あの子の不安な気持ちが楽になる場所で合って感謝しています。	子どもが安心して自分らしくいられる場所であり続け、寄り添っていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	52	1	0	0	休みの日も次の通所日を楽しみにしている。いつも先生と遊べるのを楽しみにしている。	楽しく通ってもらえるよう、活動内容や関係性を深めていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	52	1	0	0	子どもの笑顔が見られとても嬉しいです。楽しみにしているためもう少し通所したい。	利用児と保護者が笑顔で通える場所であり続けるよう、活動内容や関係性、連携を深めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
発達支援ルームでこボン（放課後等デイサービス）		2025年 11月 21日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	活動的な児が重なる場合は、活動場所や内容のすり合わせと調整をしている。	面談室などのスペースを利用し適切に活動できるように工夫する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	3	幼い子や危険認知に不安のある子には、複数の職員を配置している。	今後安定した支援や療育を行う上で職員数の確保は必要と考える。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	個人用にスケジュールボードを準備している。	スケジュールボードに関心を示さない児への対応の工夫が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日の掃除に加え、定期的に点日干しや消毒を行い、清潔に保つ努力をしている。	マット等の布製品の劣化があるため、修理や買い替え等が必要になってくる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	個別療育なのでひとりひとりに合わせた活動や環境を提供している。	個室を使いたい子が複数いる場合の対応。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	月に1度は全体会を通して業務についての話し合いを持っている。利用児についてはその都度話し合いしている。	シフトの都合で全員参加できず、伝達で申し送ることがある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	年に1度のアンケートと、翌年度に向けての意向を何うアンケートを実施している。	翌年度の利用時間について希望に添えない場合が多い。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	職員全体会議を通して話し合いや周知をする機会を設けている。	シフトの都合で全員参加できず、伝達で申し送る場合がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	本社との話し合いの中で業務会2年を行っているが、社外の第三者の外部評価は受けていない。	将来的には外部評価も必要と考える。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	社内委員会による接遇・感染防止・虐待防止・BCPIについての研修を定期でお子会っている。毎月、職種別・全職種向け・外部講師などの勉強会が定期的に行われている。	社内委員会の研修は全員参加できているが、その他の勉強会は業務時間外の開催であり、自由参加であるため職員によって参加率に差がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	ホームページに公開している。	職員全員で内容を把握できるよう定期的に確認が必要。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	子どもや保護者の希望を聞き、アセスメントを踏まえて作成している。	希望と課題のすり合わせ、バランスのとれた計画の作成。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	療育を担当する職員や普段関わることの多い職員が中心となり、検討を行っている。	経験年数や技量によって、サポートが必要ながある。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	目標に沿ったプログラムを実施している。	経験年数や技量によって、サポートが必要ながある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	利用児全員、行動観察や感覚特性を図るアセスメントシートを実施。必要な児には発達検査を実施している。	発達検査は全員には行えていない。検査結果の解釈には経験のある職員のサポートが必要。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	支援内容にその項目が該当するか、計画書に明記している。	学校や関係機関との連携については、児によって差がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	担当職員が中心となって立案している。	シフトによって担当職員ではない職員が関わることもある。現在は申し送りを十分行っており関わっているので問題はない。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	様々な情報源から、児が好むものを踏まえて他の楽しめる活動が提供できるよう工夫している。	活動が広がりにくい児への無理のないアプローチ。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	個別療育が中心だが、同じ時間帯の少数名での活動を適宜企画している。	時間帯によっては複数で活動できにくい時間もある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	療育開始までに担当する職員同士や、関わりの多い職員で打ち合わせをし、チームで関われるようにしている。	療育が立て込んでいるときに時間を工面することが難しい。（なんとかやっている）
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4	その日に出来る時と、翌日になる時があるが、かかわった職員で振り返りを行っている。	業務終了後に行えないため、翌日以降に持ち越す場合がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	毎日記録を行っている。	療育が何セッションも続くと、翌日以降に記録を持ち越すことがある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	定期的に保護者と調整し場を持って話し合いをしている。	児発管の予定と保護者の予定がなかなか合わない場合がある。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	担当職員が児発管が出席している。	学校との会議は夕方にセッティングされることが多く、人員配置上職員が抜けることが困難ことがある。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。			医療ケアの必要な児の利用がない。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	保護者からの要望を踏まえて連携を図っている。	保護者からの要望がない場合の連携
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	保護者からの要望を踏まえて連携を図っている。	保護者からの要望がない場合の連携
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	支援の難しいケースに対して、助言や連携を求めている。	全ての児については行っていない。また、県内各地からの利用があるため、全てのセンターとは連携が取れていない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6	無い。	療育スタイルを踏まえると難しい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	保護者送迎のため、送迎の際に保護者と情報共有を行い共通理解が持てるように関わっている。	療育が立て込むと、保護者とゆっくり情報交換できないこともある。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	「ペアレントトレーニング」とかっちりした形ではないが、療育時に行動理由の説明や振り返りを行っている。保護者を交えて活動することもある。	療育が立て込むと、保護者とゆっくり情報交換できないこともある。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に行っている。	契約後は行っていないので、定期的に必要かもしれない。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	モニタリングやフィードバック、面談を通し、子どもや家族の意向を踏まえるように努めている。	意向と必要性が異なる場合の対応について悩むことがある。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	計画書を保護者の目の前で一緒に読み上げながら説明している。	契約時の総数が100を超えるため、説明の機会の調整に苦労している。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	定期的なモニタリングやフィードバック以外に希望があれば面談を行っている。	発信の少ない保護者へのフォローと希望の拾い上げが必要。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	6	保護者が関係している父母の会や障害児の会等の後押しを行っている。事業所での父母会はなかなか開催できていない。が、同じ療育時間になる保護者どうして交流がある場合や必要な時に支援を行っている。	事業所主催の父母会の開催。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	希望があった場合は迅速に対応している。	面談の対応が出来る職員のスケジュールによっては翌日以降になることもある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	定期的な会報の発行、ホームページ、Instagramで活動を公表している。	業務と並行して、ホームページやInstagramヘリアルタイムで公表することが難しい時がある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	鍵付き書庫の使用や、シュレッダーでの粉砕、持ち出し禁止、話合いの声の大きな場所の配慮などの対応を行っている。	定期的に職員へ周知する必要がある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	2	視覚支援、筆談、手話等の手段でやり取りしているケースがある。	手話などは全員が出来るわけではないので、関わる職員に限られる。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6	地域住民の招待は無いが、地方祭りの協賛は行っており子ども神輿の休憩所となっている。	地方祭り以外の交流
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	マニュアルを策定し、待合室や事務室へおいており自由に閲覧できるようにしている。	定期的なアナウンスが必要。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	計画を策定し定期的に訓練を行っている。	BCPだけで行うか、防災や感染委員会と協働して行うか、調整中。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	契約時に、服薬や持病に関する記入が必要な調査票を渡しており、それによって把握している。	薬が変わった時の把握。定期的に確認が必要。（モニタリング時には確認している）
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	4	契約時に食物アレルギーについては確認しているが、食事の提供をしていないので医師の指示書はもらっていない。調理活動を行う際に保護者へ個別に確認している。	将来的に食事の提供を行うことになった場合には、主治医との連携が必要と思われる。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全計画の作成を行い、定期的に遊具点検をおこなって、安全を管理している。	定期的な点検を継続し、日々の気づきも怠らないようにする。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	安全計画について待合室にファイルを置いて自由に閲覧できるようにしている。	定期的なアナウンスが必要。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	作成し、周知している。	様々なケースがあるので、その度に方策を考えていく必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	研修を行い、対応を周知している。	研修と対応の周知を継続していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	以前に必要なケースがあった際には、説明と同意を得て期間を決めて実施し、計画書へ記載した。	保護者との十分な話し合いを行った上で取り組む。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ルームでこボン（放デイ）			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日 ～ 2025年 9月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	94	(回答者数)	63
○従業者評価実施期間	2025年 9月 15日 ～ 2025年 9月30 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育のため、個々に合わせた活動や環境の調整を行っている。	ひとりひとりの得意不得意や、強み弱みを把握し、個々の好みや希望に合わせた活動を提供している。環境についても、別室の利用などの対応を行っている。	児によって差がでないよう、個々の担当者が同じレベルで調整や対応が出来るようにスキルアップしていく。
2	療育を保護者が見学することができるため、その場で行動や関わり方についての説明やフィードバックが可能。また、保護者との情報交換もその場で行うことが出来る。	定期的な面談以外に、療育時のフィードバックや手の空いている職員が保護者へ声かけし、日々の様子の聞き取りが出来るようにしている。	職員会議等で情報を共有し、聞き取りが出来るケースそうでないケースを把握。保護者への聞き取りや助言を行う際には経験豊富な職員が中心となっていくが、経験の浅い初め職員も同席するなど、教育の場ももっていく。
3	社内委員会による必須研修、自由参加による研修や学会発表などの自己研鑽の場が多い。	本社主催の研修会、勉強会に参加している。 地域で研修会へ参加し、地域の課題の把握や繋がりを作っている。	職員が参加しやすい時間帯や方法を考えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所主催の父母の会の開催がない。	定休日無く、毎日個別の療育をおこなっているため、イベントを行うには療育を中止せざるを得ない。また、それに対してさける職員数がない。	おおがかりなものではなく、数名単位の会や、同じ時間帯での保護者の交流のサポート。
2	地域での交流がない。	個別療育が主であり、数時間を交流のために確保することが難しい。	地方祭への協賛等の交流はあるが、その他では行っていない。地域の事業所とのイベント企画などできると良いと思う。
3	マニュアルや安全計画についての定期的なアナウンスが弱い。	策定時にアナウンスし、待合室に自由に閲覧できるように置いているが、意識的に手に取らないとみることが出来ない。	新規契約時のアナウンスや、モニタリングや面談時のアナウンス等、こまめに保護者へ知らせていく。